

早島町議会だより

平成29年 3月 1日
第 55号



CONTENTS

12月定例議会概要.....	2P
常任委員会.....	3P
議会活動報告.....	4P
一般質問.....	5～13P
新成人のひとこと.....	14P

議場で答弁する子ども達

早島町公共下水道事業の健全化を図るため、下水道使用料金の値上げを可決。

12月定例議会は12月16日から12月22日までの7日間の会期で開催しました。平成28年度の補正予算や条例の一部改正など5議案を審議し、いずれも原案どおり可決しました。

条例の制定及び改正

●職員勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例について

●早島町公共下水道条例の一部を改正する条例について

早島町公共下水道事業の健全化を図るため、平成29年5月1日から施行する。

町民に対して説明会を開催するように要望しました。



●平成28年度早島町介護保険特別会計(保険事業勘定)補正予算(第2号)について

歳入歳出それぞれ53,659千円を追加し、1,117,996千円とする。

●平成28年度早島町水道事業会計補正予算(第2号)について

人件費1,055千円を追加する。

●一般会計補正予算

歳入歳出それぞれ52,964千円を追加し、5,100,239千円とする。

早島町公共下水道条例新旧対照表

改正案

第3章 公共下水道の使用
(使用料及び使用料の算定方法)
第22条 使用料の額は、次の表により算定した額の合計額に100分の108を乗じて得た額とする。ただし、その額に1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り捨てた額とする。

処理区別	区分	使用水量料金	
早島 処理分区	基本料金	1戸 1ヶ月 880円	
	従量料金 1m ³ につき	1戸 1ヶ月 0m ³ を超え8m ³ まで	18円
		1戸 1ヶ月 8m ³ を超え10m ³ まで	85円
		1戸 1ヶ月 10m ³ を超え20m ³ まで	141円
		1戸 1ヶ月 20m ³ を超え50m ³ まで	197円
		1戸 1ヶ月 50m ³ を超え500m ³ まで	251円
		1戸 1ヶ月 500m ³ を超えるもの	278円
流通団地 処理区	1m ³ につき	288円	

現行

第3章 公共下水道の使用
(使用料及び使用料の算定方法)
第22条 使用料の額は、次の表により算定した額の合計額に100分の108を乗じて得た額とする。ただし、その額に1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り捨てた額とする。

処理区別	区分	使用水量料金	
早島 処理分区	基本料金	1戸 1ヶ月 880円	
	従量料金 1m ³ につき	1戸 1ヶ月 0m ³ を超え8m ³ まで	16円
		1戸 1ヶ月 8m ³ を超え10m ³ まで	75円
		1戸 1ヶ月 10m ³ を超え20m ³ まで	125円
		1戸 1ヶ月 20m ³ を超え50m ³ まで	174円
		1戸 1ヶ月 50m ³ を超え500m ³ まで	222円
		1戸 1ヶ月 500m ³ を超えるもの	246円
流通団地 処理区	1m ³ につき	288円	

平成28年度一般会計補正予算、全会一致で通過

【総務厚生常任委員会】

議案審議の主なもの

◆平成28年度早島町一般会計補正予算(第4号)について

— 歳入 —

Q 防犯カメラの具補助金は何台分か。

A 7台分、105万円。

— 歳出 —

Q 地域集会所設置費補助金は何か。

A 集会所の修繕、備品費である。

Q コミュニティバス運行委託料300万円の内訳は。

A 修繕費150万円、貸切り代150万円である。

Q 修繕期間、貸切りの期間は。

A 期間は25日間、バス貸切り期間は19日間である。

Q 25日間の修繕期間は長すぎないか。

A エンジン部分に近いところ、排気燃料装置で部品の調達、修理等で期間が必要だった。

Q 修理の見積もりはどうしている

るのか。

A 緊急修理のため見積もりは取っていない。

◆平成28年度早島町介護保険特別会計補正予算(第2号)について

Q 1次予防事業とはどのようなものか。

A 比較的健康な方、ゆるびの舎で実施している、いきいき体操教室に係る事業である。

Q 27、28、29年度の介護保険の状況は。

A 給付費については計画を下回っており、横ばいもしくは微増となっている。

◆職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部を改正する条例について

原案通り可決すべきものと決した。

陳情・請願

地域の実情に応じた医療提供体制の確保を求める陳情

【採択】

公共下水道条例を一部改正

【建設文教常任委員会】

議案審議の主なもの

◆公共下水道条例の一部を改正する条例について

Q 料金改定の内容と改定理由は。

A 料金改定は次年度より、県の基準1世帯あたり2ヶ月55tの使用量で800円程度の料金改定を行う。公共下水道事業に対し現在、一般会計から基準内1億9078万円、基準外1億890万円の繰り入れを行っており、本来独立採算制での運営が原則であり下水道財政の健全化を図る観点から、段階的な料金改定を行いたい。

また管路閉塞状況等の改善に向けた調査及び補修工事も必要である。

Q 今後の計画は。

A 4年を目途に段階的に料金の見直しを行う。一般会計からの繰り入れの抑制を行う。また水道事業会計については、基本計画に基づく事業促進のため来年度料金改定を行う。

Q 町民に対し説明会の開催を求める。

A 以前、水道事業の説明会を開催した際、参加者が少数であった。お茶カフェ集会・広報誌等での説明を行う。

Q 計画への理解と協力を町民に押し求めるのであれば、町民への説明責任を果たすべきでは。

A 説明会は開催しない。

◆早島町一般会計補正予算(第4号)

Q 小学校工事請負費146万円は何か。

A 小学校正門横のトイレに、防犯上の理由で出入り口にシャッターを取り付ける。シャッターは常に閉じておく。

Q 下校時等利用できるように柔軟に対応すべきでは。

A 今後検討する。

他1議案原案通り可決すべきものと決した。

他1議案原案通り可決すべきものと決した。

「動く議会、変わる広報、住民に支持される広報誌づくり」をめざして

平成28年10月6日岡山市内で岡山県町村議会広報研修会が開催され、広報特別委員長、事務局職員が参加した。広報アドバイザーの吉村潔講師から「伝えるから伝わる」

「動く議会、変わる広報、住民に支持される広報誌づくり」をめざして

「広報誌」にするため、読者が読みたい、知りたい情報を届けるための工夫、ヒントなど今後の紙面に反映するべく多くのことを学んだ。

「和木学園構想の一助に」

平成28年10月27日山口県和木町議会総務文教委員会の委員長ほか議員3名と事務局長が視察来町された。

和木町は和木学園構想を進めており、当町の生涯学習、教育ビジョンについて当局より「わくわくする学び」と「いきいきとした地域」をめざした生涯学習の取り組みの概要が報告された。運営方法、予算など多くの質問が出され限られた時間の中で活発な意見交換が行われた。



和木町議会と意見交換

平成28年10月～12月 議会活動一覽

October
10
〔10月〕

27	22	21	21	15	13	11	6	4	4	3
木	土	金	金	土	木	火	木	火	火	月
山口県和木町視察来町	わかみや保育園竣工式	民生委員推薦会	山陽新聞早島印刷配送センター起工式	青空議会	環太平洋大学訪問	農業委員会	議会広報研修会	備南競艇事業組合議会	町制施行120周年記念事業実行委員会	コミュニティバス南コース出発式

November
11
〔11月〕

29	29	25	24	22	15	14	14	13	11	9	1
火	火	金	木	火	火	月	月	日	金	水	火
全員協議会	臨時議会	高梁川東西用水組合100周年記念式典	岡山県町村議会議長会臨時総会	備南水道企業団議会	町制施行120周年記念事業実行委員会	備中地区3町議会連絡協議会	岡山県町村議会議長会議員研修会	町消防団消防操法訓練大会	農業委員会	町村議会議長全国大会	備南地区婦人大会

December
12
〔12月〕

22	8	7	5	4
木	木	水	月	日
全員協議会	全員協議会	農業委員会	議会運営委員会	町制施行120周年記念式典



岡山県町村議会議長会議員研修



備中地区3町議会連絡協議会



佐藤 眞治 議員

問 災害時における車で避難を支援するボランティア隊の発足を

答 共助という考えで支援いただければありがたい

問 指定避難所に避難する際、高齢の方や障がいのある方は、避難することが非常に難しい。

昼間町内にいる消防団員が非常に少ない。夜間においては役場の職員の集合は実質困難であり、町民の皆さんの支援が難しい。

互助・共助のもと、このような方々は誰かが車で運ぶ支援が必要になってくる。町民の中で避難の援助をしてくれる人を募り、ボランティア隊を作っておくべきである。もちろん自身や家族の安全を確保したのちのことであるが、通行が可能な時間に避難所への移動手段として、一番の支援行動ではないかと思うかがか。

答 副町長 災害時のボランティア活動やお互いに助け合うことは非常に大切なことであり、これらの担い手を広げていくことは重要なことである。

災害時に動くことのできる人員の確保は重要で、消防団員や役場職員だけでは手の回らない事態も

想定でき、そのときに臨機応変に避難支援活動を行ってもらうのは大変ありがたいことだと考える。

困ったときには車を持っていく方が自発的に避難行動を支援するなど、円滑で適切な避難行動ができるよう、町として一層の広報活動を行っていききたい。

防災グッズの準備や避難ルートの確認などの自助、地域で支援を必要とする方々への気配り、車を持っている方が災害支援活動に使える状況であれば、共助という考えで支援いただければありがたい。

企業の進出で車の渋滞や近辺の交通の確保について

問 町内のあちこちで企業の進出における開発工事がされている。

企業が来るということとは、町にとっては喜ばしいことではあるが、それによって町民の方々の心配事がふえるようではいけない。

近隣の方が心配しているのは、車がふえることで交通に対しての

安全が確保できるのかということだ。

8番ラーメンの東で工事が進んでいる会社からの車の動線が心配されている。交差点の改修整備とか、歩行者への安全対策、渋滞の改善対策など考えているのか。

答 副町長 早島に企業が進出し操業していただくことは、産業の発展や雇用の場の拡大につながり町の活性化が図られ、あわせて税収増も期待でき喜ばしいことだ。状況の変化に伴う交通渋滞や交通安全については、町として適切に対応すべき課題である。

平成24年に教育委員会・町・倉敷警察署が合同で通学路の安全点検を行った箇所であり、県警や公安委員会でも緊急の整備が必要と判断し、異例の早さで信号機が設置された。

この会社は、主に2トントラックを主体とする整備工場で、出入りする車両は1日十数台で、出入り口は交差点から一番遠い箇所に設置するということである。十数台の増加ということで歩行者の安全確保に難があるとは考えていない。

通勤・通学の時間帯を避けた車両の通行等、企業に対して指導や

お願いをしていく。
問 隧道のところは、中山団地・ニュー早島・大池などの子供たちの通学路になっている。

一旦停車だけの危険な交差点になっており現在の信号だけでは、通学時の安全が非常に心配である。陸橋を設置する考えはないのか。

答 副町長 隧道のところは5差路となっているが、スペースもなしし信号による歩行者の安全確保が図られていると考えており、今のところ陸橋は考えていない。
要望 安全の確保をお願いしたい。



通学路となっている5差路



浅沼一徳 議員

問 高齢者交通事故対策について

答 高齢者の方が運転免許自主返納しやすい環境づくりを目指す

本町の高齢者ドライバーの実態、交通事故の傾向、事故防止対策について

問 近年全国的に高齢者による事故が後を絶たない。高齢者が歩行者側の事故ではなく運転手側の事故だ。高齢者ドライバー事故防止は現代を生きる私たちにとって重要な課題といえるが高齢者ドライバーの実態、交通事故の傾向、事故防止対策について伺う。

答 町長 交通事故の総件数が減少する中、各地で高齢者ドライバーによる痛ましい事故が発生している。本町の65歳以上の運転免許証保有人数は2264名で今後高齢化により人数は増加することが予想される。

交通事故発生状況は10月末現在で人身事故77件、高齢者が関係する事故15件。事故対策として、岡山県警と協力し運転免許自主返納しやすい環境づくりや広報紙を通じて自主返納の呼びかけを促す。

問 運転免許自主返納者に対し支援制度の考えは

答 町独自の施策としてはないが、岡山県が取り組んでいる愛カードを利用できる協賛店、協力店をふやし様々な特典、支援が受けられる取り組みを今後考える。

運転免許自主返納者に対し支援制度の考えは

問 運転に危険を感じる高齢者が免許証を自主返納した場合、様々な特典や支援制度が受けられる自治体がふえている。本町での支援制度の考え取り組みについて伺う。

免許証自主返納後の足の確保について

問 免許自主返納者を初め、高齢者、障害者の足となる公共交通の役割は今後大きくなる事も想定しその確保、充実、利便性の向上に取り組んで行かなければならぬ。新たな施策について所見を伺う。

答 町長 現在、高齢者の移動支援として福祉タクシー助成事業、

乗合タクシー運行事業を行っている。

町内主要箇所についてはコミュニティバスで移動が可能と考える。また社会福祉協議会で福祉有償運送事業を立ち上げ高齢者、障害者の社会進出を図っている。

今後は町民皆さんのニーズに対応できるよう検討し、高齢者、障害者の方を地域で支え合う仕組みづくりを推進していく。

乗降場所を設けない「ドア・ツー・ドア」デマンドタクシーの導入の考えは

問 本町はコミュニティバスを含め他の市町村と比べれば、よそにない取り組みをしているのは確かである。だが3年後コミュニティバスをどうするのかなどの課題もある。それらを含め今後の対策が必要ではないかと思ひ提案をする。

答 町長 今はデマンドタクシーまでは考えてない。しかしコミュニティバスも8年目を迎えており故障、修繕箇所がふえ修繕費がかさんでいるのが現状である。今は無料でやっているが、いろんなことを含めて抜本的にどうするか考えていかなければならない。また

公共交通会議で運輸局、関係者の知見、意見をもらい協議している。ここ3年で方針を打ち出していきたいと考える。

町内全体の公園・遊具等の総点検を求める

問 昭和31年に施行された都市公園法、都市公園法施行令以降、整備された数多くの公園が60年前後の時を経て衰退、老朽化しているのが現状である。本町においても遊具の老朽化、故障などで危険と思われる箇所が見受けられる。今一度総点検をして、整備を求める。

答 町長 児童公園は30数ヶ所あり、子供が遊ぶ遊具であり安全に気をつけていくため総点検を行う。

また、修繕が必要な場合、自治会の方をお願いして修繕していただくように図る。地域、学校、家庭と連携して公園の状況、あり方を今後検討していく。

要望 児童公園の整備費補助基準の見直しを図っていただきたいかがかか。

答 町長 今のところは2分の1の中でやっていただきたいと考え



子どもの貧困無くそう

問 子どもの貧困の原因はもちろん、非正規雇用の拡大、社会保障制度全体が連続的に後退していることが根底にあり、それが所得格差と貧困拡大を招いている。

本町の就学援助の割合は小学校12%・中学校が約15%だ。

この数字が岡山市（小学校約15%・中学校約17%）よりも低いのはなぜか。

答 教育長 岡山市、倉敷市は1級地。物価が高いので（生活保護基準の）1.3倍。早島は1.2倍だ。

問 要するに岡山市と比較し「物価が低いから」という理由で対象者が大幅に狭められている。水準を引き上げ、より多くの人に需給対象の拡大を求める。



真鍋 和 崇 議員

問 制服買えぬ「就学援助」拡充を

答 今回のように、このままでは

そして援助内容だ。文科省の補助対象品目にはクラブ活動費が含まれる。しかし本町ではクラブ活動は援助対象外だ。部活動は教育の一環。補助対象品目に。

そして、新入学用品費は小学校1年生で2万470円、中学校では2万3550円だ。全国的な入学準備費用は小学校で平均5万円超、中学校で平均7万円超と言われる。中学校の制服も一新された。ぜひ金額の引き上げを。

小さな街だからこそ、貧困を理由に道が閉ざされることのないように、ぜひ積極的な助成の前進を。

答 教育長 中学生までの医療費無料化、PTA会費、生徒会費、入学卒業の祝い品等も実施している。今のところはこのままでよい。

要望 原稿を読むのもよいが、医療費無料化はどこもしている。だからよいという話ではない。

生活困窮家庭が他の子らと同じ学びができない環境を一刻も早く改善を。まじめに子ども達の立場

になって考えよ。

教職員の労働環境について

問 前議会で「過労死ライン」と言われる月80時間以上の時間外勤務をする教職員があまりにも多いことを尋ね、教育長は「勤務負担軽減に取り組み」と答弁された。

どのような努力が行われたか。

答 教育長 重要課題と考え、校園長会や教頭会で改善策等を話し合った。中学の時間外は部活動指導が大半を占めており、教材研究、校務分掌、生徒指導等の順に占める。

効率的な業務の遂行、教員の心身の健康管理にむけて努めている。

問 部活動の休養日の意識的な配置、人員配置の見直しと複数顧問体制の確立を。加配も含め検討を。

答 教育長 水曜は休み、土日のどちらかは休むよう指導している。

要望 労働環境改善は号令では実現しない。必要な人員配置を。

国道以北における良好な住環境の確保を

問 （現在行われている）県道松島線拡幅後も慢性的な渋滞が懸念される。この松島線を利用する積極的な企業誘致を今後行うのか。

答 町長 企業進出はありたいが、住む方の生活環境を侵してはならない。両立が望ましい。

問 通学路に物流企業が進入路を設置することや関係車両が生活道路を「抜け道」等で利用することが懸念される。町が住民の生活環境を守る立場から指導を。

答 町長 通学路への大型車の出入りは悲惨な事故が起り得る。企業立地と住民の環境の融和は考えなければ。

一般景観基準の見直しを

問 先日の都市計画審議会で、地区計画の建物の高さ制限について指摘が寄せられた。

地域の特性に応じ、どんな町をつくり、景観へどう配慮が必要か住民の声も踏まえ、景観基準の見直しを行うべきだ。

答 町長 地域特性にあわせた景観形成基準を定める。

その他に次の質問を行いました

1、今年度行われた防災訓練の反省点と改善点

- ① 避難所集合訓練の見直しを
 - ② 地域の自主防災活動の活性化を
- 2、まちづくり、町政策の形成過程の女性・若年層の参画を



佐藤政文 議員

問 二間川の危険な箇所にはガードレール設置を要望する

答 ガードレール設置は実際問題として非常に難しい

駅前コンサートの協力について

問 道がよく真っ直ぐな道のため、車やオートバイがスピードを出しやすく、交通量がふえている、二間川筋の危険箇所にはガードレールが必要ではないか。自転車・歩行者などの交通弱者を守るのは行政の責任である。対応はいかにするのか。

答 町長 この道は30キロの速度制限がある。可能な限り整備し、警察へ指導や取り締まりの協力依頼をするなど、啓蒙活動に力を入れる。



二間川筋



まちかどライブ

問 3年前から町民有志により、町おこしの一助になればと始めた、早島の顔である早島駅前広場や駅前倉庫で開催しているコンサートに、町も何らかの形で、協力していこうという考えはあるか。官民協力をして早島町の活性化のための努力を期待する。

答 町長 今後も継続して開催して欲しい。

120周年記念事業として設けた補助事業、未来づくり応援事業を活用して、今年度の実績等を踏まえて次年度以降に継続を検討す



まちかどライブ

る。
軽トラックの貸し出しは、色々な条件が付くが、お貸しする方向で考える。

給食調理補助員の待遇について

問 安心安全のためには厳しい衛生面の指導が必要だが、衛生面ばかり気を配りすぎなのではないか。調理員や補助員から休憩時間がとれないと聞いた。

また、ミーティングなどにも時間をとられ、早島の給食は美味しいねと言われる給食を頑張っているのと応募した人のやる気をそぐようなミーティングであれば、おかしいのではないか。現実問題として、食品衛生管理のため過度の指導や調理員の人手不足により、休憩時間がとれず、日々、疲労が蓄積しているとも聞いた。

月曜日から金曜日まで約850

人分の給食を作るのは大変な作業だと思う。休憩がとれないような体制であれば人員をふやす等の施策が必要であると考える。やる気のある人が、働きやすい職場にするのは、人間関係をもとにした、環境づくりであると考えている。今後の対策などの返答はいかに。やる気のある人が、働きやすい理想の職場、それをこの早島町で実現するべきではないか。

答 教育長 本町では、食を通じた健康な人づくりの視点から食育を推進している。学校給食の果たす役割は大きく、衛生管理や地産地消、アレルギー対応など栄養士や調理員の方々に日々対応している。ただ、栄養バランスの良いおいしい給食を提供していただきたい。

今後は休憩時間がきちんととれるように改善する。代替調理員は、6月に採用したが、都合により退職された。募集しているが、まだ未配置である。栄養教諭と調理員さんが一生懸命おいしい給食をつくっていただけることには大変感謝している。労働環境の改善には、対応をきっちりさせてもらいたいと思う。



平岡 守 議員

問 地域包括ケア懇話会の公開について

答 地域包括ケア懇話会の設置要綱に従い運営しようとする

問 11月、懇話会を傍聴させていただいた。

その後、12月の懇話会も傍聴しようとしたが、今回は公開の案内をしておらず、傍聴できないと断られた。どのように理解すればよいのか。

答 町長 地域包括支援ネットワークの構築、地域づくり、資源開発などは傍聴可能。

個別事例の課題解決などは、議論の展開により個人の特定もあられるので傍聴できない場合もある。

問 12月の会議に出席した数名の委員の方は個人的な情報はなかったのに傍聴拒否はおかしいと言われていたがどうか。

答 健康福祉課長 地域包括ケア懇話会の設置要綱があり所掌事項として5項目がある。この中の援助困難事例の検討、個別ケア会議に位置するものである。議論中、個人情報特定されそうな事案は非公開とさせていただく。

認知症が疑われる後期高齢者に無料診察券を発行してはどうか

問 平成28年10月より役場に、認知症早期発見のためのタッチパネルが設置され活用が始まっている。結果によっては物忘れ外来等の受診の必要性も発生する。

このような方々に認知症無料受診券を発行し、診断されるまでの診察料の自己負担分に公費を使うことは認知症の早期診断、治療に極めて有用と思うがどうか。

答 町長 認知症は早期発見が喫緊の課題である。平成30年度からは認知症初期集中支援チームを立ち上げ専門医による検診、初期の支援を行い早期治療につなげていく。

問 実施する場合、初診から診断までの受診で自己負担分の約4000円を補助する。仮に年間100人の利用で40万円の予算で可能である。

南岡山医療センターに物忘れ外

来があり、紹介状がなく受診すれば通常16000円の特定期間診療費が発生するが町が発行する無料受診券は紹介状の代替えになるとのことだがどうか。

答 町長 提案は認知症に対応するための一つの制度と考える。来年度は7期の介護保険計画の策定、計画づくりをしていく。その中で提案していきたい。

中小企業支援の要望書について

問 早島町の中小企業支援に関する要望書が商工会から提出されているが、どう考えているのか。

答 まちづくり企画課長 商工会からの要望は4項目。その中の創業支援メニューの制定で、本町は平成27年4月にくらしき創業サポートセンターの一員となった。町内においても創業者に対して商工会や金融機関と総合的に連携し支援が行えるようになった。

しかし、中小企業応援事業費補助金等の制度はない。起業者の生の声を聞いている商工会と協議を進め本町に必要な支援施策を検討していく。

早島町地域福祉センターで開催された料理教室の衛生問題について

問 平成28年8月料理教室が実施された。参加者は大人、小中学生を含め約30数名。講師が某有名シェフと知り、楽しみに参加された方から衛生面で残念な結果が報告された。講師が味見する際、指を鍋に入れてのソースの味見、さらに唾液がついた指を再び鍋に入れて再度味見した。コーンスープも同様に味見し、コーンのカスを床に吐き出した。茹でたパスタをコンロに落とし、それを手掴みでフライパンに投入。バターも素手でちぎりフライパンに入れた。それらを、各テーブルで行っていた。それを見て気分を害した方もいる。完成後の試食ではほとんど口にできない子供もいた。これらはどう考え今後どうするのか。

答 副町長 指摘を受けたが、参加者に体調不良等はなかったと聞いています。今回の事態は許容範囲内と認識している。ただ今後、町主催行事で食中毒などの事故が発生しないよう、マスクの準備、こまめな手洗い、食品衛生には十分注意を払いたい。



古田 敬司 議員

問

来年度予算編成の重点施策はなにか

答

子育て世代の支援等、優先順位をつけて進める

問 予算編成は毎年、国、県の動向、収支計画、総合計画そして町長の公約などの要素が加味され構成されており、「町長と語ろう! お茶カフェ集会」で出された意見も当然反映されると思う。

平成28年9月議会で監査委員から財政の伸展により構造が弾力性に欠け、ゆとりがない。少子・高齢化の進展により本格的な人口減少時代を迎えており、社会保障義務的経費の増大により財政は今後も厳しい状況が想定されると指摘



早島町全体図

されている。

来年度予算編成にあたり住民の声を反映しつつ、かつ町長の公約を含め、来年度の重点施策を伺う。

答 町長 「町長と語ろう! お茶カフェ集会」は昨年11月から現在まで16の自治会、町内会で開催し、多くの皆さんから貴重なご意見、ご要望をいただいた。さらに私の公約を踏まえ、平成29年度は子育て世代の支援、子育て環境の向上を図るため保育料一部無料化年齢の対象拡大、総合的相談支援拠点である母子保健型包括支援センターの設置、たまり場の設置、また高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画の見直し、町役場およびJR早島駅周辺の土地利用計画の策定、排水対策事業、公園施設のトイレの洋式化、教育環境の改善、コミュニティハウスの機能強化、公共下水道施設の適正管理などを重点施策として予算編成を進めていく。

イベント事業について整理すべきではないか

問 今年早島町は町政施行120周年を迎え、「見直そう120年、見つけよう未来」のキャッチフレーズを合言葉に新規事業、既存事業、町民提案事業を開催してきた。

特にこの12月にはNHK放送の「勝手にブランド発見伝」からの提案により、キャンドルナイトが開催され6千個の灯籠に明かりがともり、幻想的な世界に圧倒され、今までにない感動があった。

120周年記念事業はまだ年度途中で総括されていない状況にあるが、来年度以降のイベント事業について、早島の新たな歴史の1ページをつくるためにもスクラップアンドビルドの観点から既存事業と新規事業の整理をすべきではないか。

答 副町長 町制施行120周年記念事業にあたり町民参加による実行委員会方式で事業の実施に取り組んできた。町民、地域の方々の協力なしでは、ここまでできなかった。

既存事業については来年度以降も従来どおり継続していただき、



キャンドルナイトの幻想的な世界

これらの事業が基幹となり、この120周年記念事業の成果を130周年記念事業につなげていきたいと考えている。

新規事業については次年度以降引き続き同じ規模での実施は考えていない。ただ、地域活性化につながるイベント、例えば町民提案事業である駅前コンサート、ジャズコンサート、未来づくり応援事業などについて補助制度の新設など、制度設計の検討を考えている。

またキャンドルナイトで小学生に120年の夢を書いていた。本当に素晴らしいイベントだった。こういったイベントを通じ町民が一体となり、将来のまちづくりを頑張ろうという機運が生まれることは大変ありがたいことだ。

議員、地域、町民の皆様のご意見を伺いながら、130年に向けて頑張ってまいりたい。



郵便局前の減速マーク

問 2012年に全国的に通学路の緊急点検が行われた。このことにより早島町での現在の安全確保に向けての進捗状況、優先順位を問う。

答 町長 危険箇所への主な改善は、松尾坂の横断歩道の設置、区画線の引き直し、ゆるびの舎第2駐車場北の二間川筋に横断歩道の設置、中学校正門付近に減速マークの設置、長津交差点付近の区画線の引き直し、郵便局前の減速マークの強調を行った。

弁財天地内3差路への横断歩道の設置は29年度に、大池地内交



松森京子議員

問 通学路の安全確保に向けての進捗状況を問う

答 安全対策の取り組み方針を明文化し継続的に取り組んでいる

差点の改良は30年に行う予定だ。今後取り組み方針を明文化し、通学路の合同点検を継続的に行う。優先順位は警察、県民局、教育委員会、建設の部局、PTAそれぞれの方を交え協議し、緊急性を要するもの、また県道であれば県民局と協議し順位を決める。

問 町内は通過車両が多く、通学路が県道ということもあり、20キロオーバーで走行する車、団地の中でもスピードを出し通り抜けていく車を目撃する。危険場所は定期的に絞り込み、団地内は、スピード制限する「ゾーン30」の表示を示すなど、新たな危険箇所の対応を。

答 町長 抜本的な方策も必要である。また個別の案件は警察と相談し、できることであれば要望していく。

職員・消防団に防災士資格を

問 今後懸念される首都直下地震や南海トラフ地震、気象災害に

備えて、減災と社会の防災力向上を目指し活動する防災士は、我が国の地域の防災力強化のためになくてはならない存在となっている。

これらのことを理解された上で、本町の職員、消防団の方も資格取得できるようにするため、予算計上を要望する。

本町で防災士の資格を何人の方が取得されているのか問う。

答 町長 防災士の資格は職員特定でなく、町民も含め2名分の補助金を予算計上している。興味のある方、意欲のある方には受けていただくようPRに努めた。

防災士の有資格者は、町内に10名。そのうち職員は0、消防団員は調査中である。

町制施行120周年事業の成功に向けて

問 平成28年2月26日町制施行120周年懸垂幕掲揚式を行い、町民の方たちとお祝いし、その後数多くのイベントが行われた。

3月をゴールとし、大成功のイベントを計画されていると考える。反省点、今後の計画、PR方法、そして町民の方々の心に何を



キャンドルナイト

残してあげられるのかを問う。

答 まちづくり企画課長 事業数は町主催事業27件、町民提案事業10件、応援事業5件、合計42件。そのうち実施完了事業34件。

反省点は1番に町長選挙直後の準備スタートだったことから準備期間が短かった。その上、決定事業から順次広報したため、120周年記念事業の全体像をぼかす結果になった。

今後の予定は、マラソン大会、子ども議会、健康づくり講演会などである。

記念事業であることをしっかりとPRする。

皆さんの心にこの節目の年に自分の町で行われた行事に関わった、という記憶を残していただきたい。



小池 宏治 議員

問 本町の観光・産業施策の分野で将来に向けての考えは

答 本町が重視すべきは、人口・住生活などの定住促進施策

問 本町が、まち・ひと・しごと総合戦略を進める上で、昔からの交通の要衝で、ポテンシャルに恵まれた本町の観光・産業施策の分野をどのように活かしていく考えか。

答 町長 観光では今までの流れに磨きをかけ、また産業ではつくば商工会と連携・協議しながら振興を図っていく。この観光・産業の重要性は認識しているが、自主自立のまちのためには、本町が重視すべきは人口安定化・住生活の環境整備などの定住促進策であると考えている。

問 観光・産業をこれから具体的にどうしたらよいか。県知事は観光振興・産業育成について、投資効果が高く地域経済に好循環をもたらす観光分野に重点的に取り組み、地方創生を進める観点からも一層充実させる必要があると言われている。企業誘致も踏まえて、若者・よそ者・地域の人達をもっと活用していく必要があると思うが。

答 町長 地の利を生かしたまち

問 「道の駅」の誘致について

答 まちづくり企画課長

づくりをしていきたい。そして観光よりちよつと別の観点で住みやすいまちづくりをやっていきたい。

問 まち・ひと・しごと総合戦略の中に、創生本部を設置するとあるが、設置したのか。

答 まちづくり企画課長 まだできていない。

問 いまだに本部がないということとは心配だ。もう少しスピード感をもっていただきたい。倉敷では岡山大学と連携してプロジェクトを組んで、観光振興に若者の視点を持ち込もうとしている。本町は国からまち交大賞をいただいているから、その後何も動きがない。今はツーリズム（観光事業）が全国的な流れのようで、本町も陣屋・金毘羅などのツーリズムという感覚があってもよいと思うが。

答 町長 新しい住宅地、既存の住宅地、伝統的な町並みの居住空間・生活の質を高めていくことを一番に、その中に歴史的ゾーンをどう生かすか考えたい。

問 庁内の活性化を図る行政改革は

答 町長

町長の公約で、「早島の特性と魅力を活かすため、全国に誇れる道の駅を国交省と協議を行い誘致を図ります」とある。本町は国道2号線が開通以来、南北格差がずっと続いている。道の駅は申請から設置までに3年半ぐらいかかる。どのように取り組むのか。

答 町長 道の駅の誘致を提唱しているが、休憩・情報発信機能など莫大な費用を要するので、道の駅の実現は難しい。しかし広域交流拠点は必要なので検討したい。

問 今全国で道の駅は1079カ所ある。これまでの道の駅は休憩・情報などが中心であったが、今後はさらに高度化が進んでいく。その1つは主に地場産業の振興、2つ目は地域商品のブランド化を図る、3つ目は観光交流の拠点を主眼にしていくということである。公約にしているので実行していただきたい。

答 町長 県南のこの地に果たして本当に必要なのか。私はいろいろ問題があると感じている。

問 町長は30数年間勤められた

本町の役所のシステム、組織等々について町のトップリーダーになられて、これからの行政改革をどのように考えているのか伺う。

答 町長 町では人事評価制度を27年度に試行し、今年度から本格的に導入した。人事評価は統一的基準で公正に評価し、その結果で職員の意識改革を促し、組織の活性化につなげて資質の向上に取り組んでいる。

問 職員提案研修規程が平成9年に施行されて20年がたった。この規程は職員の提案によって、職員自らの資質向上と町政への参加意識の高揚を図ることが目的だが、町長は一度でも提案されたか。

答 町長 制度は知っていたが、提案したことはない。

問 この規程は職員の創意工夫による町民サービスの向上に役立つもの、事務事業の能率向上に役立つもの、町財政の改善合理化に寄与するものなどである。施行以来20年間で2件あった。職員は公僕で町民のためにサービス向上などを考えることが当たり前と思うが、この現状をどう思うか。

答 町長 いい制度だと思う。提案がないのは非常に残念な結果だ。



LED防犯灯は省エネ性能に優れ、低炭素社会に貢献



佐藤智広 議員

職員の超過勤務について

問 職員の超過勤務の実態を把握しているのか。またその現状をどのように受けとめているのか。

答 町長 職員の時間外労働については、地方分権化に伴う新たな業務による増加もその一つかと考えるが、ここ数年増加傾向にあるのは把握している。課長会議等において各課の勤怠管理を徹底するとともに、今後も時間外勤務の削減に向けて組織全体で取り組んでいかなければと考えている。

防犯灯のLED化による自治会活動費の増額と低炭素社会の実現

町内防犯灯の一律LED化に取り組んでいきたい

問 業務の拡大等により、機動性の高い組織編成を行う必要があるというところで、町職員から事務分掌見直しの案が提出されたと思うが、その取り組みについて問う。

答 町長 職員から提言があり、概ね改革を行っていくという方向ではある。しかし、予算や人員のことがあり段階を踏んでいきたい。職員の意見を考慮しながら進めていきたい。

防犯灯のLED化推進

問 町長は6月の一般質問の際、防犯灯のLED化を図っていきたくていたが、29年度当初予算編成方針を見ると、LED防犯灯整備計画として平成30年に1千万円の設計費用、翌31年に400万円のリース料があがっている。どのような方針なのか。

答 町長 環境省が行っている地方公共団体と連携したCO2対策としてLED照明導入の推進事業がある。現在、この事業に応

募すべく検討している。補助事業が採択されるようであれば、一斉に町内の防犯灯のLED化に取り組んでいきたい。

問 現在、長津・畑岡自治会では防犯灯が71あり、支払っている防犯灯の電気代が年間約25万円。一方、町からの自治会等活動推進補助金が約40万円。補助金の62・5%である。これがLEDにすることで32%程度に軽減される。つまり70%近くが、自治会の活動費として使える。また低炭素社会の実現という意味からも、早急に進めて行ってほしい。

答 町長 基本的に、国が進めているのはリースとなり補助率も、場所等により3分の1から5分の1。上限が1千200万円から2千万円となっている。早速、当町も手をあげ補助申請をしたいと思っている。

遅々として進まぬ水路整備

問 JR早島駅南の農業振興地域についてだが、農業委員会及び全員協議会でJR早島駅南農業振興地域についてのアンケートの結果とその説明を聞いたが、理解できない。

まず改訂第4次早島町総合計



営農環境整備が進まないJR早島駅南の農業振興地域

画では、水稻を中心とした土地利用型農業のほか、野菜・果樹では施設・露地園芸を推進するとある。また早島町都市計画マスタープランでは、優良な農用地として生産環境の向上を図るよう水路整備を推進するとある。ところが、町長は今回のアンケートは62%の回収率で、3分の2地権者が農業を継続する意思がほとんど見受けられないという理由と、水路整備費用捻出は不可能であると言われた。

答 町長 総合的に考え、町内河川の排水が大きな問題だ。農業者が継続的に良好な環境で営農できる施策として、系列的に流れるような幹線水路の整備をしたいと思っている。

新成人のみなさん! おめでとうございます!



まちの将来を託す新成人のひとこと



はやし しょういちろう
林 翔一郎

親、恩師、先生、友達、先輩、後輩、多くの人に感謝し、これからは世の為、人の為に生きていきます。



かねだ みさき
兼田 美咲

2月からCAとして働きます。高め合える大切な早島の仲間に恥ずかしくないような大人になりたいです。



いそやま ゆめみ
磯山 由芽実

私は幼児教育を学んでいるので、子どもを理解し気持ちを受け止められる先生になれるよう頑張りたいです。



みぞて かんた
溝手 寛太

新成人として社会で頑張っていくにあたり、早島町民としてのアイデンティティを持ち社会に旅立とうと思います。



ふるかわ たくま
古川 拓磨

成人を迎え社会人への第一歩を踏み出すとともに周りに感謝され、感謝できる人になりたいと思います。



かなもり ももこ
金森 桃子

成人するまでに多くの方々にお世話になりました。今までのことに感謝しつつ、社会に貢献する形で恩返しできればと思います。

◆編集後記◆

今年もはや3月の声を聞く頃となりました。

町制施行120周年のイベントも3月4日の「早島町健康づくり講演会」が最後となります。

今年の運勢は、ある易学によると丁酉（ひのと）の干支に当り丁（ひのと）は十干の4番目、酉（とり）は十二支の10番目で「昨年実ったものはしっかりと確実に得ることができることから、成功や成果・ヒントを授かる年」とあります。

120年目という大還暦の歴史を振り返れば、宇喜多堤築堤に始まった我がまち、干拓・い草・花ゴザ・陣屋まちと金毘羅往来と交通要衝のまち並等々、長い歲月の流れの中で、先見の明をもった先人達の叡知と努力の積み重ねで、他に誇れる自慢のすばらしいまちを築かれて、今、私達はその恩恵を受け継いでおり、新しい歴史のはじまりの年となります。

易を信じれば、我がまちの恵まれたポテンシャルをさらに大きく活かすチャンスの年だとも思います。地方創生の今、次の世代へ向け大きな転換の年となる可能性を秘めています。

町民皆さん、行政も議会とともに「夢の宝島」に向かって、一緒に築いてまいりたいと思います。

議会広報特別委員会